

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

（市町村名：木津川市）

タイトル	介護予防サポーターによる体操教室の普及と地域展開について
------	------------------------------

現状と課題

2025年には団塊の世代が75歳を迎え、一気に高齢化が進んでいくこととなり、本市では2023年には後期高齢者が前期高齢者を上回る年になると予測されています。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果では、地域の会・グループ等への参加について、認定を受けていない方では、「趣味関係のグループ」への参加率が34.5%と最も高かったものの、参加していない方が42.7%と参加率を上回りました。老人クラブなどといった組織活動よりも、趣味等に関する自発的に選ぶ活動への参加頻度の方が高いということが分かりました。また、「参加している」と答えた方のみを見ると、「体を動かす」と回答された方が最も多い結果となりました。

このことから、地域活動に参加していない方の参加を促すには、「体を動かせる機会」をつくるのが有効な一つであると考えます。

本市では、介護予防の担い手養成として、平成28年度より介護予防サポーター養成講座を実施し、平成30年度で3年目となります。養成後の介護予防サポーターによる活動を推進するため、定期的な体操教室の開催支援、介護予防サポーターの技術向上支援、介護予防サポーター間の交流や連携の支援を実施しています。今後も体操の普及及び定着と、各地域の身近な場所での開催を増やしていく必要があると考えます。

第7期における具体的な取組

市民サポーターの養成による地域づくりへの展開を組み合わせ、体操の担い手となる介護予防サポーターを今後も養成することにより、住み慣れた生活の場において、より身近な場所での住民主体の体操教室の開催を目指す（サロン活動の推進）。

目標（事業内容、指標等）

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
実施個所	10	12	15	17
サポーター養成 人数（延べ）	126人	161人	190人	220人

目標の評価方法

- 時点

- 中間見直しあり

- 実績評価のみ

- 評価の方法

- ・養成された介護予防サポーターにより定期的に開催されている体操教室（サロン活動）をカウントしていく。
- ・すでに開催されているサロンに加え、新規に立ち上がるサロンの数をカウントする。

取組と目標に対する自己評価シート（実績評価）

（市町村名：木津川市）

年度	平成 31 年度
----	----------

実施内容	
<ul style="list-style-type: none">・開催されている体操教室（サロン活動）の実態調査—各体操教室代表者に連絡し、開催状況を確認。・介護予防サポーター養成講座及びスキルアップ講座の実施（年 1 回） 介護予防サポーター養成講座—8/20～9/10 にかけて 6 回 26 名の養成者 スキルアップ講座—9/13、19、20、26、10/9・養成された介護予防サポーターの技術的支援。 年 3 回スキルアップ研修の実施—7/9、11/8、R2.2/18 3 か月に 1 回交流とスキルアップのためのミーティングの実施 6/28、9/29、12/22、R2.3/22(コロナ感染拡大防止の為中止)—計 3 回の実施	
自己評価結果	
<ul style="list-style-type: none">・介護サポーターによる体操教室をサロン活動として社会福祉協議会に登録し、開催しているグループが増えつつある。・拠点開催数—4 箇所、地域開催数—17 箇所、合計 21 箇所に増えた。・歩いて行ける場所での開催が求められている—地域開催数が前年度に比べ 3 箇所増加。・地域によっては、開催場所である集会所があっても使用料にばらつきがあり、使用料の負担が問題視されている。	
課題と対応策	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・介護予防サポーターによるサロン開催ができていない地域がある（加茂圏域）。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域開催に至らない課題を分析する—加茂圏域では合併前からの取組みで本体操教室以外の体操教室が根付いていることから、新たに取り入れにくい部分がある。しかし、加茂圏域で養成されたサポーター中心に広めていただくよう要請していく。・先進地のサロンに参加してもらい、立上げや運営についてのノウハウを学んでもらう。・サポーターへの支援として、地域でサロンを立ち上げる際に、介護予防の必要性を理解していただくための啓発活動を必要に応じて市も加わり実施する。	